

平成 29 年度 第 3 回諏訪市保育所専門委員会 議事録

日 時 平成 30 年 2 月 19 日 (月) 午前 10 時から
場 所 諏訪市役所 302 会議室
出席者 保育所専門委員 7 名
事務局 5 名

1. 開会
2. 議事 (1) 新年度における保育・子育て関連事業について
(2) 本市における公立保育所の今後のあり方について
(3) その他
3. 閉会

【議事】

- (1) 新年度における保育・子育て関連事業について

----- 事務局より説明 -----

資料 1 平成 30 年度保育・子ども子育て関係予算(案)について

- ・ 平成 30 年度予算案(こども課関係)及び*新規・拡充事業について説明
- ・ 国の幼児教育の段階的無償化の取り組みに対応した保育料の見直しの考え方について
*育児サポート事業、保育所施設整備事業、病児病後児保育事業

《委員長》

- ・ ただいまの事務局からの説明に対して質問や意見がありましたら発言ください。

《委員》

- ・ 子育てパンフレットは、保護者の方の要望も多いので良いことだと思いますが、どのような情報をほしがっているのかを把握したうえで作成しないと無駄なものになってしまう可能性があります。パンフレット作成までの事務の進め方を教えてください。
- ・ 次に親支援講座についてです。子どもと向き合うのが難しいと言われる時代、お母さんたちの悩みも昔とは変わってきていると思うのですが、何年も同じような講座をやっているように感じています。親支援は大切なことですから、ぜひ既存の講座を見直したうえでやってください。また、新しい講座をはじめると、既存の講座もあるのでどれを選んでよいかわからなくなってしまいます。例えば「一人目のお子さんのときに公民館の講座を受講した。二人目のときには別の機関が主催する講座に参加したが内容は同じだった。」と言われたことがあります。講座のあり方を全体で見直してみるのがよいと思います。
- ・ 続いて保育所の施設整備について、給水管等の工事を行うとのことですが、どこの園

を予定しているか教えてください。

- ・最後に蓼科保養学園について、施設の老朽化が進んでいますが、今年度は大規模な修理修繕の予定はないのでしょうか。以上、よろしく申し上げます。

《委員長》

- ・育児サポート事業のパンフレットのあり方、親支援講座について、もっと発展的にならないのかといった意見であったと思います。保育所の施設整備や蓼科保養学園の事業につきましても、事務局から見解をお願いします。

《事務局》

- ・ご意見をありがとうございます。パンフレットについては、行政が提供する情報が利用者にとっても欲しい情報であることが大切と考えますので、利用者にご意見を伺える機会があれば、ぜひ参考にしたいと思います。新しく本市に転入されてきた方の中には、例えば、保健センターでこういうことをやっていますよ、とご案内しても保健センターがどこにあるかがわからない。たとえば、新米のお父さんなどが「母子保健」といった視点で行政を見る、ということは少なかったと思いますので、そのようなことを踏まえて基本的な情報を載せていきたいと考えています。できあがったパンフレットは「諏訪リブ」をつかってHPなどから閲覧できるようにする予定ですので、在住の子育て家庭の皆さまにもご利用いただけると考えています。
- ・親支援の講座は公民館、保健センター、子育て支援センター等それぞれが実施していますが、なかなかそういった講座に出掛けられずに悩みを抱え込んでしまっている保護者の方に、相談の間口を広げていくことが必要です。こども課で主催する親支援講座は、本年度試行的に開催したCARE（ケア）というプログラムになります。受講回数が多い講座もありますが、回数が多いと参加することが負担になってしまうこともあるようですから、短期に行えるものを予定しました。
- ・本市職員の中に、このプログラムを教えることができる者がいますので、その知識や専門性を十分に発揮することで費用も抑えながら、幅広く保護者支援をしたいと考え予算化した事業です。
- ・また、「いろいろな講座が開かれているが、それぞれわかりづらい」というご指摘に対して、事例などをお伺いしますと、体系的に整理していく必要があると感じました。検討させていただきたいと思います。
- ・保育園の給水管布設替工事は、文出保育園と角間川保育園の2か所を予定しています。施設設置後30年～40年経っていますので、メンテをしていきたいと考えています。
- ・蓼科保養学園については、経常的な修繕経費は例年同程度の額を計上させていただいております。建物はだいぶ古くなってきましたが、この建物を含めてこれからの学園の運営をどのようにしていくかは大きな課題です。蓼科保養学園あり方検討委員会の答申を踏まえ、現在こども課内で具体的な方針を検討しています。

《委員》

- ・ 私たちが所属する団体でも親支援というのはすごく大切であると考えており、これからも関連した講座を開催していきたいと考えていますが、年間で講座を開催していくうえで、市から支援があるとたいへんありがたいです。今回の育児サポート事業では、このような民間の活動を支援する仕組みはないのでしょうか。

《事務局》

- ・ 委員所属の団体には、親支援講座だけでなく多方面から子育て支援に取り組んでいただいております。ただし、今回の予算（案）は、行政が自前で行う講座のための経費であり、他の団体への財政的な支援は考えておりません。広報活動などでの協力はできると考えています。

《委員》

- ・ 親支援講座について、こども課に資格がある職員がいらっしゃると言うことでしたが、どのような資格なのか教えてください。

《事務局》

- ・ 今回計画をしています「CARE（ケア）」というプログラムを教えるために取得した資格で、資格取得のための研修を修了しています。講師となる職員は元々保育士をされていた方で、保育・育児に関しても幅広い知識、経験も備えています。

(2) 「本市における公立保育所の今後のあり方」について

----- 事務局より説明 -----

資料2 諏訪市の児童発達支援体制及び子育て支援シートについて

資料3 教育・保育施設等に係る利用調整基準について

資料4 諏訪市における特別保育事業（地域子ども・子育て支援事業）について

《委員長》

- ・ 資料1から3について説明がありました。事務局の説明に対して質問や意見を出してください。

《委員》

- ・ 資料2の発達に障がいがある子ども等への支援フロー図について、これは行政の方の資料だと思うのですが、保護者の方にもわかりやすくまとめられているものがあればいいと思います。障がいがある子どもの親は、何でも手探りからはじまります。専門の療育機関に行ってみたり、なかよし教室行ってみたり、それ以外にもさまざまな手段や方法を自分で探して、共有できる親と情報交換してみたり・・・とすごく苦勞をしています。
- ・ 行政が使うだけであればこれで良いと思いますが、家庭に向けて発信するのであれば、具体的な療育機関名を入れていくような工夫が必要だと思います。いずれにしても、

このような支援のつながりが一目でわかるフローを家庭向けに作成していただけるとありがたいと思います。

《委員長》

- ・ すべての関係機関を載せようとするとうわりづらくなってしまいかもかもしれませんが、事務局での見解はあるでしょうか。

《事務局》

- ・ このフローは、子どもの発達段階に応じて、行政がどういう支援をしていくのか考えたときに、（諏訪市児童発達支援体制推進委員会が組織する）就園支援部会、就学支援部会、就労支援部会から見て、どのように支援がつながっていくのかを示した図です。行政機関を中心に支援のつながりをイメージしたフローになっていますので、ご指摘のとおり法人・民間等の関係機関の全部を網羅しているわけではありません。
- ・ また、一般の方が見た場合には、たいへんわかりづらいものになっていると思いますし、あわせて、保護者の方にもこのようなフロー図が必要であることがわかりました。

《委員》

- ・ 支援フロー図で気になったのが、こども課が支援するステージに「関係者へのカウンセリング・保護者への心理的サポート等」と記載されているのに、それがあまり感じられないことです。それでも言語聴覚士や相談員、学校にはスクールカウンセラーなどが入っていますので、サポートはしていると思っています。そのような説明が少しでも書かれていると、保護者の方も安心できるのではないかなと思います。
- ・ 最後に、子育てシートの保管は保護者でしょうか。

《事務局》

- ・ 子育てシートはその子のライフステージで主に支援にあたる機関が保管しています。保護者の同意をいただいたうえで子どもの発達の記録をシートに記載し、このシートを子どもの成長段階にあわせて、母子保健、保育園、学校へと次のステージで携わる機関につなげていくことで、支援の経過や情報が共有できる仕組みです。

《委員》

- ・ 支援シートを保護者の方が目にすることはないのですか。

《委員》

- ・ （保育園で使用している子どももいますが、）気になる子の支援の方法や課題となるところなど、記載する内容は保護者と一緒に確認するようしており、支援のための情報は共有しながらシートを活用しています。

《委員》

- ・ これはとても良い取り組みですね。保育園から小学校に進学した時、支援がストップしてしまったという保護者の話も聞きますので、このシートによって、関係機関が連携して支援がつながっていくことが良くわかります。

《委員》

- ・ 子育て支援シートには「保護者の承認があって初めて成り立つ」と書いてありますが、そうでない保護者の方はどのようにしているのでしょうか。

《事務局》

- ・ 子育て支援シートにはお子さまの大切な情報が記載されます。関係機関が連携をして支援していくために、シートに記載された内容を共有しますので、保護者の同意が必要となるということです。ただし、個人の情報やプライバシーの問題、発達に対する理解の問題などもあり、同意することにご理解をいただけない保護者の方もいます。このような場合には支援シートを使用ませんが、その子の特性に配慮した支援はしているところです。

《委員》

- ・ 幼稚園や保育園から小学校に上がるときに、学校の先生にその子の姿などをお伝えする機会がありますが、親によっては「支援してほしい」という人もいれば、「全然、大丈夫です」という人もいますので、その子の姿を伝えることに保護者が入ることには難しい課題もあります。

《委員》

- ・ 小学校へのつなぎなどでは、相談の場面で保護者の方に入っていただくことに難しさを感じることはありますが、保護者の方にも現状を把握していただき、一緒に考えていただくのが理想的だと思います。日々の集団の中での様子などは、良いところも、課題があるところも丁寧に伝えていますが、「ウチは大丈夫です。」といった返事をいただく場合もあります。

《委員》

- ・ 難しいと思うのは、認めたくないとか、その困り感を一人で抱え込んでしまうケースです。そういった方に、子どもの姿をどう伝えていくかが課題です。早めに支援を受けた方が良いことはわかっていますが、お母さんがわかっても、お父さんがわかってくれないといった話も聞きます。（障がいであることを）受け入れるのに、半年や1年かかることもよくあります。そういうケアを行政からしてもらえると助かります。

----- 事務局より説明 -----

議論の進め方、スケジュール等について

資料 諏訪市におけるこれからの公立保育所のあり方について（進め方の案）

《委員長》

- ・ 事務局から、今後のスケジュール（案）と今日までの議論を整理して報告していただきました。これらを踏まえて、公立保育所に求められる役割や機能について、もう少し意見交換をしてもらいたいと思います。

《委員》

- ・ 配慮が必要な子どもを支援していくには、先生の数も必要になってくると思います。そのようなことも含めてこれからの保育運営を考えていかななくてはならないと思いますが、諏訪市の場合、保育士の確保に課題はないでしょうか。

《委員長》

- ・ 現状の保育施設の中で保育士が不足しているのかどうかといった質問です。配慮が必要な子どもが増えている中で、諏訪市の現状として保育士数は十分に確保されているのでしょうか。もし、不足しているとすれば、不足を解消するためにどのような方法があるのか、そのあたりまで掘り下げて考えていく必要があると思います。

《事務局》

- ・ これからの保育所運営を考えたとき、保育士の確保というのはとても大切な課題です。前回資料提供しました「保育ニーズの将来展望」では、子どもの数は減ってくるが当面は保育ニーズ総数はそれほど変わらない。3歳未満児ニーズがもう少し高まることを踏まえると、保育に必要な人数はこれまでよりも必要になってくると考えられます。しかしながら、直面する減少人口社会は、働く人も減ってくるということになりますので、保育の人材確保はもとより、さらには育成と専門性の向上をセットで考えなければならぬと思っています。
- ・ 保育士の配置については国が基準を示しています。当市ではその基準を下回らない範囲で独自の配置基準を決めて保育士を配置しているところです。
- ・ 当市の場合、発達が気になる子や集団生活が苦手な子に対しては、「加配」ではなく、その子を含むクラス全体を支えるための「サポート」担当職員を配置しています。集団の中で発達が気になる子は増えていますが、保育士数には限りがありますので、サポートをどこまで手厚く配置するかといった課題は出てくると考えられます。

《委員》

- ・ 気になる子などが入園してくるとき、保護者から「加配はしてもらえますか。」と聞かれることがありますが、必ずしも加配はその子のためにならないとも考えます。確かに誰かひとりがその子に付いて支援をすることは、親にとっても集団にとっても助かりますし、「目が行き届く」という面では安心ですが、小学校、中学校、そして社会人になってからのことを考えるととても難しい問題です。
- ・ 子どもたちはいろんな壁を抱えています。その壁にどう対処して、どう乗り越えて生きていくのが大切になります。そのために、大人はどのようなサポートをしてあげることが重要です。支援が必要な場合であっても、支援のバランスはとっても難しい。そういう意味では支援をする人の質を上げることが重要で、専門性のある人を育てていく方が人をどんどん増やしていくよりも効果的ではないかとも思います。

《委員長》

- ・ そのような場合、例えば（ほかの子と）同じ部屋で支援をする方がよいのでしょうか。それとも別の部屋があった方がよいのでしょうか。

《委員》

- ・ 一人ひとりサポートの仕方は違うと思いますが、配慮が必要な子どもと交流することは、周囲の子どもにとってもよいことです。社会がそういう子たちを隔離してしまうと、関わる機会が薄くなり差別につながる可能性もあると思います。保育の中でいろいろな交流があると、他の個性を小さい時から素直に受け入れることができますから、とても大切なことだと思います。

《委員長》

- ・ とても難しい課題ですね。配慮が必要な子の支援について公立保育園ではどうあるべきなのでしょう。あり方については、人材を育成していくことも考えなくてはいけないと思いますがいかがでしょう。

《委員》

- ・ 諏訪市ではサポート保育士を配置して、できるだけクラスの中で、ほかの子と一緒に保育をするようにしています。また、小さい園であれば、比較的子どもは落ち着くので、サポート担当がつかなくてもクラスの中にいられるということもあります。
- ・ 近年、気になるお子さんは本当に多くなってきました。子どもの姿もいろいろが多様化してきています。そのような状況に対応していけるように、保育士も知識を深め、どう対応したら良いのかを研修等で身につけるなどして、質の向上につなげていかななくてはならないと思います。

《委員長》

- ・ 少し話題はかわりますが、以前の保育所専門委員会で、保育園の再編・統廃合について議論した経過があります。その時は、保育園の保護者は統廃合をよしとしたのですが、そのあと祖父母たちから厳しいお言葉をいただいたことがありました。「この保育園はおらほの保育園だ。」「ここで育ってきたんだ。」という意見が根強くありました。保育園の大小にかかわらず、地域では「おらほが守ってきた保育園」という感覚が強いように思います。

《委員》

- ・ 保護者が子どもを幼稚園に入れようとしたら、「どうして地元の保育園に行かないのかと祖父母に止められた」と県外から転入してきた若いお母さんから相談されたことがありました。わざわざ幼稚園には行かなくてもいいという方もいるようです。

《委員》

- ・ 小中一貫校の地域懇談会などでも「小学校と中学校を統合してしまうと自分の地区に学校がなくなってしまう。そうすると子どもがいなくなってしまう。」といった意見が出されていました。子どもがその地域に住んでいる限り、地域の活動があれば子どもはどこにも行かないのではないかと思います。学校がなくなるから子どもがいなくなるという考え方が、もう少し違う考え方向に代わってくるとよいように思います。

- ・ 保育園の再編を考える場合も同様ではないでしょうか。地域の力をつけるために、地域も勉強していかなくてはいけないと感じました。

《委員》

- ・ 少子化の課題を「保育園や小学校がなくなるから」という括りで考える方がおられますが、少子化は保育園や小学校がなくなるのとは無関係だと思います。諏訪市だけではなく、全国どこも少子化は進んでいます。お年寄りは増えていますが、子どもの減り具合が市町村の人口を左右していきます。諏訪市でも人口は減少していますが70年経つと子どもがいなくなってしまうとの話も聞いたことがあります。これからの施設のあり方を議論する場合、統廃合することが悪者にされてしまうような「地域の感覚」を薄めていくことも必要ではないでしょうか。
- ・ 市内でも子どもの数が大きく減少している地区もありますが、減っているのであれば地域のお祭を子どもと一緒に守るとか、空き学校ができるのであれば地域の学校として使用するなどの工夫も必要になってきます。もしかしたらそのような取り組みの中に、アットホームな場所がよいからと移り住んでくれる人がいるかもしれません。
- ・ 少子化が進展していくのは間違いないことですが、それを逆手にとって、質のよい教育を提供したり、子どもを主体とした学べる環境をつくったりと柔軟な発想で考え、諏訪市は「子育てによいまちなんだよ」と宣伝していけるとよいと思います。

《委員長》

- ・ どんどんと保育園が建設されていたころは高度成長期でしたが、現在は、核家族化が進み、生まれ育った家を離れてしまう方が増えていますが、地域に戻りたくなるような雰囲気が出てくればよくなると思います。働き場所を増やすとか、社会全体がみんな子育てをしていくようにならないと子どもは増えていきません。子どもが減ってしまったり、人口が流出してしまったりする流れを食い止められるような発想があって、それを実践できれば、地域も変わってくると思います。

《委員》

- ・ 産婦人科が多いのは諏訪市の特徴であると思います。産婦人科が選ばれるというのは恵まれていると思いますし、もっと宣伝していいことだと思います。結構、里帰りして「〇〇医院」で出産したといった話も聞きます。子どもを産むとその後は保育園を利用する方が多いと思いますので「この保育園はこんなところがよいよ。」「こんなよい先生がいるよ。」といった宣伝も必要ではないでしょうか。

《委員》

- ・ さきほど、先生の質が大切だといった話がありました。ファミリー・サポート・センター事業では、毎年「まかせて会員（お子さまを預かる会員さん）」の養成講座を開催しています。何年か前は、保育園の臨時職員など 保育士資格を持っていない方などに受講してもらったことがあります。「まかせて会員」になる、ならないに関係はなく、

知識を持った人が多くなれば、配慮が必要な子どものサポートにも役立てていただけるのではないのでしょうか。このような既存の制度を上手に活用して専門的な知識を持った人を増やしていくことも大切だと思います。

《委員長》

- ・ そのほか意見はあるでしょうか。ここで、これから答申をするに向けて、どのように委員会としての意見をまとめていくか、事務局から提案をいただきたいのですが。

《事務局》

- ・ さきほど、地域の方の考え方と子育てをしている保護者の考え方が異なっていることがあるといった話も出されましたが、「これからの保育所」を検討するうえで保護者の方のニーズも確認する必要があるのではないかと意見がありました。事前に委員長とも相談させていただき、素案としてのアンケートを作成しました。アンケートの実施及び内容について、ご意見をお聞きしたいと思います。
- ・ なお、今回のアンケートは子育て支援サービスなどの事業量を推計する資料とは異なり、この委員会で出された意見の方向性を確認したり、内容を補則したりすることを目的と考えています。したがって、ある程度地区や子どもの年齢などを絞りながら回収数が100～150くらいになるように配布したいと考えています。

- - - - - 事務局説明 - - - - -

- ・ アンケート（素案）を配布して意見をいただく。

資料 アンケート調査 協力をお願い

《委員》

- ・ 未就園児は調査の対象となりますか。

《事務局》

- ・ 保育園に在園している3歳以上の子どもと3歳未満の子どもがいる世帯を中心に調査をしていきたいと考えていますが、未就園の子どもも対象にしていきたいと考えています。委員の中に未就園の子育てサークルの世話人をしていただいている方もいますので、お知恵をお借りしながら、保育園に入っている方の意見、これから入る方の意見、両方聞ければよいと考えています。

《委員》

- ・ 設問についてですが、「質問4. 保育園のよいと思うこと」の問いに「交通の便・駐車場の通いやすさ」の選択肢は入れられないのでしょうか。保護者の方から駐車場の問題をよく聞きます。その辺の質問も入れてもらいたいと思います。

《事務局》

- ・ ご意見ありがとうございます。付け加えます。

《委員》

- ・ 質問1-3に「あなたの就業状況」とありますが、あなたというのが誰を指しているのか気になります。共働き世帯が増えて、今は育児にも積極的に参加して下さっているお父さんもいらっしゃいますので、「あなた」が誰を指すのかわかりづらいかもかもしれません。

《事務局》

- ・ 調査票では1ページ目に、「主に育児をされている保護者の方」と説明を加えてありますが、記述については検討させてください。

《事務局》

- ・ 本来であればもう少し時間をかけて、ご意見を伺いながら修正していただければいいのですが、時間の都合もありますので、本日いただいた意見を参考に、もう少し表現を柔らかくしたり、わかりやすくなるように内容を検討しながら事務局で修正をさせてもらいたいと思います。
- ・ 修正したアンケートにつきましては、委員長と最終調整のうえ、アンケートを配布したいと思います。お忙しい中ですが、委員の皆さまにも今一度確認いただき、何かございましたら今週中に事務局まで連絡をお願いします。
- ・ なお、配布先ですが、地域のバランスなどを見ながら保育園を決定し、保護者会の協力を得て3歳以上児と未満児の保護者をお願いしていきたいと考えています。また、未就園の子どもたちのサークルには、関係する委員のお力もお借りしながら可能な範囲で協力いただきたいと思います。

《委員長》

- ・ それでは、修正・見直し及び配布の方法等については、事務局一任でよろしいでしょうか。

《委員》

- ・ 「異議なし」の声。

《事務局》

- ・ 回収後はできるだけ速やかに集計をして、次回委員会では速報値になると思いますが、回答の傾向だけでもお示しできればいいと考えています。

《委員長》

- ・ それでは、アンケートについてご意見があるようでしたら今週中に事務局の方へ連絡をお願いします。

3 その他

- ・ 次回日程について
平成30年3月26日（月）10:00～
会場は後日通知